

## 4-1 実践事例及び考察

### 実践事例1 授業の考察

#### (1) 評価テストとその結果

単元終了後に、評価テストを実施しました。その結果を基に、授業の考察を行います。

#### 大問1 説明的な文章「アップとルーズで伝える」の段落相互の役割を捉える。

- ・ 全体のまとめ
- ・ 説明（アップについて）
- ・ 説明のまとめ（中のまとめ）
- ・ 説明（ルーズについて）
- ・ 写真（新聞）でのアップとルーズ
- ・ 問い

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
話題提示（きっかけ）							

**説明文テスト**

名前（ ） 月（ ） 日（ ）

一、説明文「アップとルーズで伝える」を読んで、  
②～⑧段落それぞれの役割について、当てはまる  
ものを次の  から選び、書き入れましょう。

資料1 評価テスト 大問1

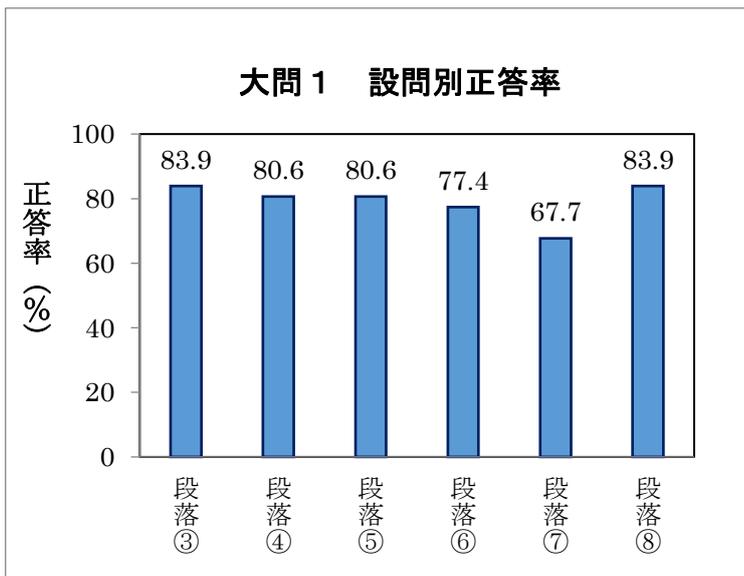


図1 評価テスト 大問1の正答率

学習で取り組んだ説明的な文章の構成の理解を見る設問です。

学習の中で、児童が最も悩んだ段落⑥、⑦の役割の正答率は、⑥77.4%、⑦67.7%でした。「全体のまとめ」以外にも、部分的なまとめがあることを本単元で学びました。しかし、部分的なまとめと全体のまとめの役割を区別できずにいたり、⑦段落もまとめと捉えたりしている児童が数名いました。

また、全段落正答している児童は、61%でした（図1）。

大問2

学習で学んだことを、初見の説明的な文章「くらしの中の和と洋」を読んで、活用することができる。

オ 写真を使って、より分かりやすくしている。	エ 対比を使って、ちがいはつきりさせている。	ウ 問いの文がある。	イ まとめの段落がある。	ア 「はじめ」「なか」「おわり」の三つに分けることができる。	【説明文お宝ヒント集】にあるヒント 「くらしの中の和と洋」 段落
---------------------------	---------------------------	---------------	-----------------	-----------------------------------	--

二、説明文「くらしの中の和と洋」を読んで、次の問いに答えましょう。

説明文「アップとルーズで伝える」は、【説明文お宝ヒント集】のヒントが当てはまるものと、当てはまらないものがありました。

① 説明文「くらしの中の和と洋」では、次の五つのヒントが当てはまるのでしょうか。ヒントが当てはまるものには○、当てはまらないものには×を書き入れましょう。

② イ、ウは、どの段落に書いてあるでしょう。段落の番号を書きましょう。

資料2 評価テスト 大問2

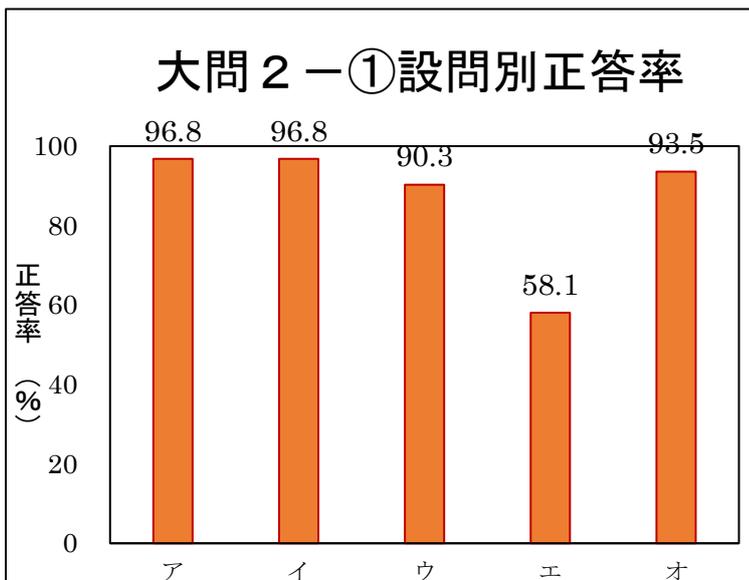


図2 評価テスト 大問2-①の正答率

単元の学習で学んだことを、活用できるかどうかを見る設問です。

問い①では、段落相互の関係をつかむために、段落の役割が読めているか（イ、ウ）、全体の構成が捉えられているか（ア）、筆者の工夫が読み取れているのか（エ、オ）の5つのことを見ました。段落の役割や文章全体の構成は、捉えることができているものの、本単元で初めて出てきた対比の関係を捉えることには課題が残っているといえます。

(2) 振り返りのアンケート

単元終了後に、児童に意識調査を行いました。その結果を基に、授業の考察を行います。

あなたは、「アップとルーズで伝える」の学習を通して、以下のことは分かるように（できるように）なりましたか。自分のことを振り返って答えましょう。

ア 分かる（できる）      イ 分からない（できない）

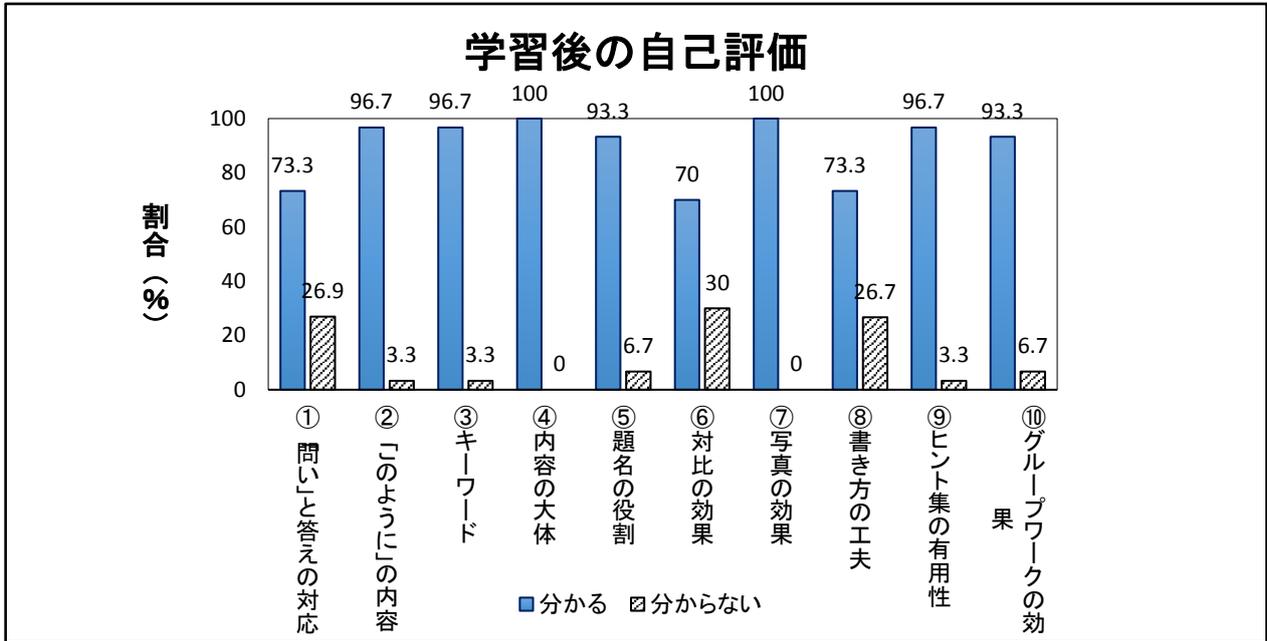
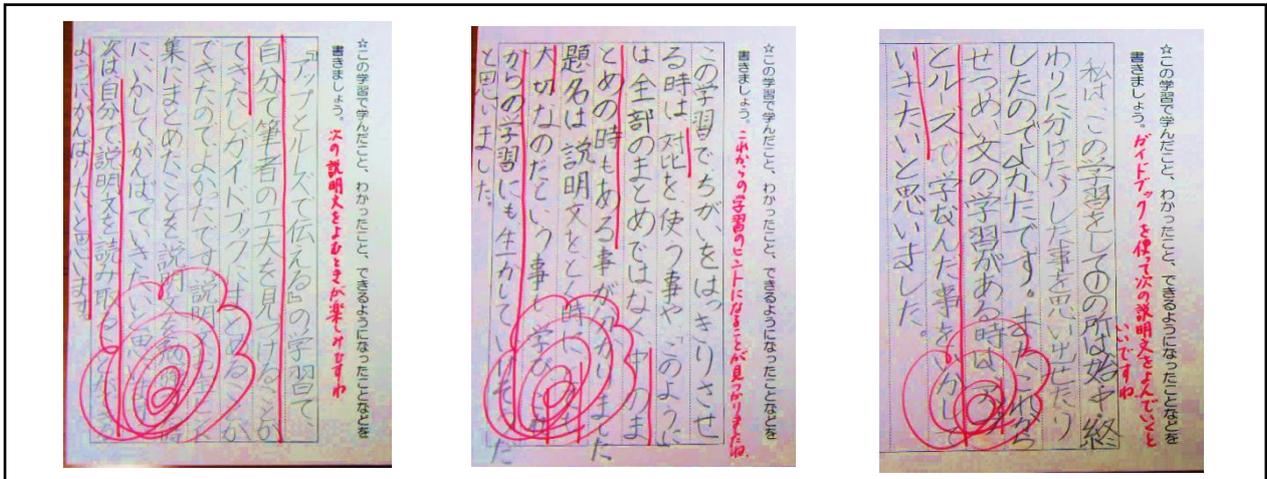


図3 学習後の自己評価

図3より、7つの項目について90%以上の児童が、3つの項目について70%以上の児童が「分かる(できる)」と自覚しています。今回の学習で作成し、活用した「説明文お宝ヒント集」については、96.7%の児童が、他の説明的な文章にも使えると答えており、有用性を感じていることが分かります。また、資料3の単元終末時の振り返りの記述から、この学習で自分の力になったことを、次の学習で生かしていきたいという内容の記述が多く見られ、「説明文お宝ヒント集」にまとめたことが、説明的な文章を読む自信につながったと思われます。



資料3 児童の振り返りの記述

### (3) 成果と課題

実践校においては、学習状況調査等の結果から、以下のように課題を焦点化し、具体的な手立てを考え、授業実践に取り組みました。

#### ○実践校における課題の焦点化

「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」



#### ○課題の解決に向けて必要な力

「説明的な文章の解釈に関して、段落相互の関係を捉えながら読む力」



#### ○授業改善のポイントを生かした手立て

##### ア 児童に見通しをもたせ、主体的な学びをつくること

[手立て①] 低学年の説明的な文章を副教材として用いて、学び方を確認させる。

[手立て②] 学習を通して得た新たな知識を「説明文お宝ヒント集」にまとめさせ、活用を図る。

##### イ 単元を通して言語活動を位置付けて授業を行っていくこと

[手立て③] 単元を通じた言語活動として「ガイドブック作り」を位置付け、主体的な活動につなげる。

##### ウ 自分の考えを広げたり深めたりさせる話し合いを授業に取り入れること

[手立て④] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、グループ学びを設定する。

##### エ 学びを自覚させる振り返りを取り入れること

[手立て⑤] 振り返りで、キーワードを使って「学習して分かったこと」をまとめさせ、「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させる。

#### 【成果】

[手立て①] 単元の導入で、低学年の説明的な文章を副教材として用いて、学び方を確認させたことは効果的でした。そこでの確認が、本教材の比較の対象となり、児童は常に2つの説明的な文章を比較しながら、学習を進めることができました。

[手立て②] 「説明文お宝ヒント集」を作成しながら学習を進めていくことで、児童は説明的な文章の学び方を習得していきました。中心となる語を捉えることや文章の構成に着目することを繰り返し行うことができ、説明的な文章に対する苦手意識が少なくなり、学習に対する自信が付いたと思われます。

[手立て⑤] 「学習を通して分かったこと」と「できるようになったこと」の視点で振り返りをさせたことで、児童は自分の力をメタ認知するようになりました。「これは、できるようになったよ」「次の学習でも使えるよ」と自分ができるようになったことを具体的に自覚できたものと思われます。自信を付けた児童が増えました。

#### 【課題】

[手立て③] ガイドブック作成という言語活動を通して、全文ワークシートを基に段落相互の関係や対比の関係を捉える力を付ける予定でしたが、ガイドブックの特徴から、分かつ

たことをまとめる活動になってしまいました。単元で付ける力と言語活動の特徴を考え、より最適な言語活動を考える必要があることが分かりました。

**[手立て④]** グループワークの時間が十分に確保できませんでした。グループワークの時間はここでなければならぬと決めずに、課題の解決に向けて学び合う力を付けるためにも、必要に応じて何度も繰り返し、柔軟に取り入れることが大切だと分かりました。